

# 令和7年度 尚絅大学附属こども園 学校評価

(評価対象年度：令和7年度)

# 1 学校（自己）評価 令和7年度 尚絅大学附属こども園 学校評価

**本園の教育目標** 附属こども園の理念・使命・目的に基づき、就学までに次のような子どもを育成することを目標として教育・保育を行う

(1) 恵まれた自然環境の中で、いきいきと遊ぶ子ども (2) すなおに自分を表現する子ども  
 (3) 人とのかかわりの中で思いやりや親しみをもつ子ども (4) 心豊かで、創造性のある子ども  
 (5) 遊びを工夫し、進んで行動する子ども

## 令和7年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員62名、回答数62名、回答率100%

評価はABCの3段階とします。以下の2～6頁のI～Vの「評価」で、A評価が2/3以上ある場合がA評価を、2/3以上AまたはB評価がある場合を「B」ランク、それ以外を「C」ランクとします。

	評価の観点	評価	成果(丸数字)及び課題(■)
1	子どもの健やかな成長のための教育・保育の充実	A (A)	<p>①園の環境を活用し園児の発達や興味、季節等を配慮して教育・保育を計画的かつ創造的に実践することができた。特に、年長児による自分たちで育て、収穫した大根のバザーでの販売や、「食に関する活動」は、試食体験等、保護者から高い評価を得た。</p> <p>②令和8年度県私立幼稚園連合会県大会及び九州地区大会問題提起園として、大学・短大と連携した園内研修を実施したり、授業への参加、講話への招聘等を通したりして研修の充実を図った。</p> <p>③DX化の推進では、ICT支援システム「コドモン」導入3年目となり、園児の出欠管理やバス運行状況、お知らせ、写真による怪我の状況報告、ドキュメンテーション機能の活用などの利用を通して、保護者とのコミュニケーションが以前より円滑になった。</p> <p>④小学校に見通しをもって入学できるように、ひらがな・かず・英語遊びや近隣小学校1・2年生と年長児の交流を実施した。</p> <p>■「コドモン」の利用については、研修を通して、便利で豊富な機能を業務省力化や保育の質向上にさらに役立てることができるようにしていく必要がある。</p> <p>■菊陽町の幼保等と小学校の連携アプローチ計画をもとに、小学校との交流など、次年度は早目に計画を立て持続的に実施していく。</p>
2	子育て支援の充実	A (A)	<p>①在園児保護者への支援は、「子育て相談会」「お誕生会」「おしゃべりカフェ」「親と子のつどい」などが好評だった。</p> <p>②子育て支援室「どんぐりルームころころ」の活動では、制作やリトミック、知育ヨガ、講話など様々な活動を準備し、参加者からはとても好評だった。</p> <p>■特別な支援を要する園児と援助・配慮を必要とする保護者に対して、今後とも療育施設との連携や近隣市町担当課等との連携を推進する。</p> <p>■園児の安全を最優先に考え、研修や講話、会議などを通して事故防止の徹底を図っていく。</p>
3	次世代保育者の育成	A (A)	<p>①大学(子ども教育学部)・短期大学部(幼児教育学科)との実習連絡会などを通して実習生の情報共有や「実習のしおり」を通して実習の指導内容の共通理解に努め、実習生にとって充実した教育実習につながったと考える。</p> <p>②「運動能力測定」を大学と連携して行ったり、幼児教育学科の授業の一環として絵本の読み聞かせやストレッチ体操などの活動を行ったりして、学生の教育・保育力向上に寄与した。また高校生、幼児教育学科、大学生の教育実習、自主自習だけでなく、中学生の保育体験なども積極的に受け入れ、附属園としての役割を果たすことができたと考える。</p> <p>■近年の短期大学部入学生減少に伴い、実習の受け入れ態勢の修正を行いながら、今後園内研修や園外研修、園内の教育保育活動を通して積極的に連携を深めていきたい。</p> <p>■人員不足の中、教職員が平日の研修に参加する際のフォローづくり、また振替休日や年休をとりやすくするためのフォローが課題である。</p>
4	自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の確保	A (A)	<p>①令和8年度の募集では3歳1号園児が減少し、年少クラスを1クラス減にすることになった。令和7年度は公定価格の引き上げもあり、収支の均衡はおおよそ保つことができた。また収支均衡を実現するためにも定員の見直しの対応が必要となり、現在押し進めているところである。令和8年度より1号の利用定員の見直しを行い、従来の1号200名を170名とする予定である。令和7年度4月1日時は、261名だったが、次年度同日は243名の予定である。</p> <p>②尚絅学園HP「お知らせ欄」等で、本園の魅力や園児達の姿の情報提供を積極的に行った。</p> <p>③令和8年度の常勤職員を募集しても応募がなく職員の負担が増す等、通常の保育への影響が懸念される。また子育て支援室をはじめとして事業計画を縮小したり目標を達成できなかつたりすることが懸念される。</p> <p>■職員だけでなく保護者や卒園児の関係者などの意見を取り上げながら園児の確保につなげていきたい。</p> <p>■人材確保に関する大学、短期大学部との連携強化や処遇の見直し等を通して保育者の確保につなげていければと願っている。</p>

# 1 学校（自己）評価 令和7年度 尚絢大学附属こども園 学校評価

令和7年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員62名、回答数62名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A:十分達成、B:概ね達成、C:やや不十分、D:不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。  
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果(丸数字)及び課題(■)
I 子どもの健やかな成長のための教育・保育の充実	1尚絢らしさを生かした、質の高い教育・保育の充実と、自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の育成	(1)クリエイティブな教育・保育の実践と改善(幼児棟)	「全体的な計画」「指導計画案」「各クラスの計画」等をもとに、豊かな自然体験や食育等で心身ともに健やかな園児を育てる教育・保育の推進、および小学校への円滑な接続の推進(幼保等小・中連携アプローチの作成と実践、小学校との交流、英語あそびや言葉遊び、数あそびなどの実践)(幼児棟)	A	①日頃の環境整備・補修に努め、園の環境を活用し園児の発達や興味、季節等を配慮して教育・保育を計画的かつ創造的に実践した。 ②園で採れた野菜や果物を給食で使ったり、試食体験をしたり、家に持ち帰り家庭で食べたりするなど、園の自然と食を結び付ける活動を積極的に行った。また昨年度に引き続き年長児が収穫した大根等を保護者が実施するバザーで保護者に販売する活動を行った。今年度は種から育て除草作業も園児が行った。 ③小学校に見通しをもって入学できるように武蔵ヶ丘北小1年生及び武蔵ヶ丘小2年生と年長児の交流を複数回実施した。また講師をお呼びしてのひらがな遊び、英語遊び、及び職員による数遊びを学期に1回程度それぞれ実施した。 ■小学校との交流は3学期2校と別々に行ったが、他の行事等の兼ね合いで時期を早めたり回数を減らしたりして無理ない範囲で行うようにしたい。次年度は早目に計画を立て持続的に実施していく。
		(2)要領に示された「10の姿」の方向に育つ園児達	質の高い教育・保育や安心安全な環境で伸び伸びと遊ぶ園児達の姿に対して、学校評価保護者アンケートにおいて、関連する設問の「満足」の比率が90%以上を達成	A	①10の姿全てにおいて94%を超えており、質の高い教育・保育や安心安全な環境で伸び伸びと遊ぶ園児達の姿に近付けたと考える。 ■相対的に低い項目について、園外・園内研修を通して、課題を共有し、指導力を高めたり園としての対策をとったりしていく。
		(3)教育・保育におけるDX化の推進	ICT支援ツール「コドモン」等を活用した業務の効率化、ドキュメンテーションの本格的な実践化。	A	①「コドモン」を利用して保護者との出欠や園からのお知らせなどの連絡の効率化が進み、プールの出欠の有無や、一時預かりの申し込み状況のお知らせ、リアルタイムでのバスの位置の把握、ケガの状況を写真でお知らせなど少しずつ進んでいる。 ②ドキュメンテーション機能を活用してクラスの生活や遊びの様子を幼児棟は担任から配信した。 ■配信するお知らせが分かりづらかったり後から見直すときに探すのに不便だったりするという意見があるので、複数でのチェックを確実にしたり資料室を利用したりして利便性を高める。
		(4)園児の安全性を高める体制づくりと、教職員の業務効率化・負担軽減の実現	職員で働き方の改善の方策を考え、それをもとにした業務改善の具体化。年休や出張等で教職員が不在の場合の園児の安全性の低下を防ぐためのフォロー体制づくりの改善。保育者・補充教職員・パート保育者等の確保。	B	①教職員の業務効率に関しては幼児棟教職員の時間外勤務時間数は月平均6.4時間となった。昨年比△2.7時間となった。保育棟では月平均8.0時間、昨年比△0.4時間となった。昨年度より改善された。 ■園児の安全性の確保を第一に考え、幼児棟と保育棟で連携を取りながら、できる限り見通しをもって臨機応変にフォロー体制をつくっていく。特に園児の安全性を確保するための人員確保や職員不足などへの対応をさらに図っていく。
2豊かな人的・物的環境を通した、尚絢らしい家庭的で温かい愛情に満ちた保育の充実	(1)一人一人に応じた温かい保育(保育棟)	一人一人に応じて「個人別月間指導計画」や「保育日誌」等を活用して行う保育	A	①本園の実態に合ったゆるやかな担当制を通して、家庭的で温かい愛情に満ちた安心安全な保育を実践している。 ②細やかな個人別月間指導計画を立て、保護者と連携を図っている。「保育日誌」等を活用し、保育教諭間の連携がとれるようにし、細やかな保育や怪我や病気、安全面に関する対応を行っている。 ■今後とも一人ひとりが大切に育てられるために、保育をPDCAサイクルに則り修正発展させていく。	
	(2)要領に示された「5つの領域・3つの発達」の方向に育つ園児達	家庭的で温かい愛情に満ちた安心安全な保育に対して、学校評価保護者アンケートにおいて、関連する設問の「満足」の比率が90%以上を達成	A	①「5つの領域・3つの発達」の方向に育っていると評価している割合は100%で、温かい声かけや愛情あふれる接し方を教職員が意識して実践できていると考える。	
	(3)園児の安全性を高めるための保育者の確保	年休や出張等で教職員が不在の場合や、早朝や午後保育時に教職員が不足する場合の園児の安全性を高めるためのフォロー体制づくり、保育者・補充教職員・パート保育者等の確保	A	①園児の安全性の確保を第一に考え、教職員が足りない時間帯を中心に幼児棟と保育棟で連携を取りながら、できる限り見通しをもって、また臨機応変にフォロー体制をつくっている。 ■欠員が出たときの職員の確保と臨機応変なフォロー体制づくりを今後も行っていく。	
	(4)教職員の共通理解と資質の向上	職員会議や園内研修を年間に10回以上開催	A	①令和8年度県私立幼稚園連合会県大会及び九州地区大会問題提起園として、大学・短大と連携した園内研修を実施したり、授業への参加、講話への招聘等を通したりして研修の充実を図った。月1回を目途として、着実に実施できた。 ■次年度も継続して行っていく。	

# 1 学校（自己）評価 令和7年度 尚絢大学附属こども園 学校評価

令和7年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員62名、回答数62名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A:十分達成、B:概ね達成、C:やや不十分、D:不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。  
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

	評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果(丸数字)及び課題(□)	
Ⅱ 子育て支援の充実	1保護者・行政・療育施設等と連携した在園児保護者の子育て支援の充実	(1)園児の命と安全を守るための、教職員の研修・保護者支援のための「子育て相談会」・関係機関等との連携・協力	A	①「子育て相談会」は年間10回以上行う予定であったが、21回実施することができた。 ②「お誕生会」「おしゃべりカフェ」等を通して在園児の子育て支援を図ることができた。 ③年少以上の保護者を対象に、こども教育学部・短期大学の先生等を講師として、「子育て講話」や親子リトミックなどを行い、多数の保護者の方が参加され、好評だった。 ■関係機関とさらに連携を深めながら家庭教育への支援に努めたい。	
		(2)保護者の安心感と園児の安全性の向上	A	①昨年度までの5年間の平均は10件で、今年度の申請件数も10件であった。要因は自分で転んだり切り株などに躓いたりしたことや友達と接触する中で起きた案件もあった。 ■安全点検や事故の起きやすい状況、園庭や室内での事故の起きないような見守りの体制を徹底するだけでなく園児に対して遊び方の声掛けや指導を今以上に共通理解を図りながら行っていく。	
	2子育て支援室「どんぐりルーム」における地域子育て保護者支援の充実	(1)「どんぐりルーム」の積極的開催	「どんぐりルーム」開催年間140日以上(感染症拡大時は除く)	A	①たくさんの未就学児とその保護者が「どんぐりルーム」に入室した。開催日数は144日だった。 ■次年度は担任・担当者不足のために開催日数を縮小せざるを得ない状況がある。そのなかで職員の動きを考えながらできる限り開催していきたい。
		(2)講演会やイベント等の計画的実施	講演会やリトミックなどを年間5回以上、お子さまの体重測定を年間10回以上、制作・お誕生会・運動会・クリスマス等のイベントを年間20回以上実施し、参加された保護者満足度が80%以上	A	①講話(絵本の読み聞かせ)や親子活動(親子リトミック造形遊び、おもちゃ作り、運動会など)が計8回、月1回の身体測定・制作・年2回の知育ヨガの実施を行い参加者の満足度も高かった。 ■今後も参加者のニーズに合ったイベントを企画していく。
Ⅲ 次世代保育者の育成	1尚絢高校生、幼児教育学科、学部学生のための教育実習の充実	(1)高校生、短大生、大学生の教育実習内容の改善	A	①幼児教育学科・こども教育学部とこども園で話し合いを重ねながら「実習のしおり」は幼児教育学科・こども教育学部で改訂されており、実習の充実につなげている。実習生の実習態度も良好だった。 ②「運動能力測定」を大学と連携して行ったり、幼児教育学科の授業の一環として絵本の読み聞かせやストレッチ体操などの活動を行ったりして、学生の教育・保育力向上に寄与することができた。 ■評価の平均は以下の通りであった。短期大学部2年生…3.1、1年生3.1、大学2年生…3.1	
		(2)実習生を直接担当する保育者10名の業務負担軽減	A	①幼児棟担任における実習期間5か月の時間外勤務時間数の月平均15時間以内の目標内の7.5時間という結果だった。昨年度と比較すると、約2.6時間少なくなっている。実習生の減少と記録用紙の簡素化などが要因だと考える ■実習期間も短くなり、負担軽減が進んでいる。今後も引き続き削減に向けて工夫していきたい。	
	2大学・短期大学部と連携した研修の充実、研究の推進	(1)大学・短大と連携した研修の充実	大学・短大と連携した園内研修や、授業、講話等を年間5回以上実施	A	①実習連絡会や、公開シンポジウム・短大セミナーへの参加、大学の先生をお呼びしての園内研修・講話など10回以上の研修機会を設けることができた。 ■次年度も積極的に連携を取りながら、保育の質の向上につなげていきたい。
		(2)園外研修に主体的・積極的に参加できる環境づくり	園外研修中に園児の安全を守るため及び振替休日取得のためのフォロー体制づくり、補充保育者等の確保、園外研修の参加延べ人数前年比+10%	A	①安心して園外研修に出かけられるように事前に打ち合わせをして保育・教育内容を引き継いでいる。また計画的にフォロー体制づくりを行った。 ■教職員が平日の研修に参加するためのフォローの保育者の確保、また振替休日を取りやすくするためのフォローの保育者の確保が課題である。

# 1 学校（自己）評価

# 令和7年度 尚絅大学附属こども園 学校評価

令和7年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員62名、回答数62名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A:十分達成、B:概ね達成、C:やや不十分、D:不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。  
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果(丸数字)及び課題(□)
IV自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の確保	1遊び環境を整備し、本園の魅力や園児達の姿の情報提供	(1)園児の遊び環境の整備	園児の年齢や興味・関心、季節等に合わせた魅力的な遊び環境の整備	A	①月ごとの環境会議を開き、学年間、学年内の情報交換をしながら計画を立て魅力的な遊びの環境を整えている。 ■遊びの環境の質は保ちながら会議の回数や時間を見直し、職員の負担軽減も進めていく。
		(2)尚絅学園HP「お知らせ欄」の充実	尚絅学園HP「お知らせ欄」で、本園の魅力や園児達の姿の情報提供を年間に150回以上。うち園の様子を当日に配信する件数100回以上。「お知らせ欄」以外における本園の良さが伝わる内容の工夫。	A	①HP「お知らせ欄」の情報提供は、235回行った。(昨年比△1回)そのうち、当日配信は153回だった。 ②HPの「入園のご案内」欄において、在園保護者の感想、杉の子会広報誌などを掲載したり、動画欄に園の様子をアップしたりして、本園の良さをアピールした。 ■今後も、さらに魅力あるHPづくりに努めたい。
	2保護者のニーズに応じた園児を確保と収支均衡	(1)受入園児数や定員の見直し等による収支均衡の実現	年齢別・認定別の受入園児数の見直しと定員見直しのタイミングやそれに伴う問題点等の検討、および午前中保育やお弁当の日の削減、預かり保育の日数増等の実施を通しての1号認定園児数の前年比増加による収支均衡を実現。	A	①収支の均衡はおおよそとれているが、令和8年度の募集では3歳1号園児が減少し、年少クラスを1クラス減にすることになった。 ②令和8年度より1号の利用定員の見直しを行い、従来の1号200名を170名とする予定である。 ■今後も少子化により園児数の減少が続いていくことが予想されるため順次利用定員の見直し(減員)を検討・実施していく。
		(2)教職員の心身の健康や安全面への配慮	教職員の勤務時間・休暇、サービス等の管理、心身の健康や安全面への配慮、ハラスメントの防止、法令順守、危機管理	A	①勤務時間の順守、休暇取得について、先を見通した動きができるように定期的に声かけしているところである。 ■心身の健康や安全面の配慮についてはさらにアンテナを高く組織的にサポートしていく必要がある。また次年度、職員の不足が見込まれる中で様々な方策を立て、職員の負担軽減に努めたい。

## I 乳児期の保育のねらいである「3つの発達」に照らして、わが子はその方向に育っていると思われるか、他子育て支援等

- 1 調査時期 令和8年2月  
 2 調査対象 乳児ひよこ組保護者9名、回答数7名、回答率78%  
 3 評価基準  
 (1) 1～3：評価の観点（3つの発達）  
 4.とても育っていると思う 3.だいたい育っていると思う 2.あまり育っていないと思う 1.まったく育っていないと思う  
 (2) 4～5：本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価  
 4.とても満足している 3.だいたい満足している 2.あまり満足していない 1.まったく満足していない

(1) 評価の観点（3つの発達）		4	3	2	1
1	身体的発達 （健やかに伸び伸びと育つ） <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の愛情豊かな受容のもとで、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をしはじめている <input type="checkbox"/> はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かしてはじめている <input type="checkbox"/> 授乳や離乳をすすめていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ食べることを楽しみはじめている <input type="checkbox"/> 生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をしはじめている <input type="checkbox"/> おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じはじめている	100.0	0	0	0
2	社会的発達 （身近な人と気持ちが通じ合う） <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ安定感をもって過ごしはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等に体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらいやり取りを楽しみはじめている <input type="checkbox"/> 自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表わしはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の語り掛けや発声への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育ちはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生えはじめている	100.0	0	0	0
3	精神的発達 （身近なものに関わり、感性が育つ） <input type="checkbox"/> 身近な生活用具、玩具や絵本など、身の回りのものに対する興味や好奇心をもちはじめている <input type="checkbox"/> 様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きが豊かになりはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等と一緒に、様々な色彩や形のものや絵本などを見はじめている <input type="checkbox"/> 玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど手や指を使って遊びはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等のあやし遊びに機嫌よく応じはじめている <input type="checkbox"/> 歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しみはじめている	100.0	0	0	0
(2) 本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価		4	3	2	1
4	子育て支援事業への満足度 私は、尚綱こども園で行われている「子育て支援事業」全般に満足している。	57.1	42.9	0	0
5	経営、教育・保育全般への満足度 私は、園の教育・保育のあり方、安全面、環境面（施設・遊具・教材・絵本等）、給食、情報提供等の経営全般に満足している。	71.4	28.6	0	0

## Ⅱ 幼児教育のねらいである「5つの領域」に照らして、わが子はその方向に育っていると思われるか、他子育て支援等

1 調査時期 令和8年2月

2 調査対象 1歳りす組・2歳うさぎ組保護者30名、回答数24名、回答率80.0%

3 評価基準

(1) 1～5：評価の観点（5つの領域）

4.とても育っていると思う      3.だいたい育っていると思う      2.あまり育っていないと思う      1.まったく育っていないと思う

(2) 6～7：本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価

4.とても満足している      3.だいたい満足している      2.あまり満足していない      1.まったく満足していない

(1) 評価の観点（5つの領域）		4	3	2	1
1	健康 <input type="checkbox"/> 先生や友達との生活リズムに慣れはじめています <input type="checkbox"/> 体をいっぱい使って遊ぼうとしている <input type="checkbox"/> 多くの食品に慣れ、食事を楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 手を洗うなど清潔の習慣がしだいに身に付きはじめています <input type="checkbox"/> 衣類の着脱を自分でしようとしている <input type="checkbox"/> 自分から便器で排せつしようとしている	62.5	37.5	0	0
2	人間関係 <input type="checkbox"/> 先生や友達と一緒に心地よく暮らしはじめています <input type="checkbox"/> 先生や友達と適切な行動や言葉で関わろうとしている <input type="checkbox"/> 園生活にきまりがあることや、その大切さに気付きはじめています <input type="checkbox"/> みなし遊び（真似）やごっこ遊びを楽しもうとしている	62.5	37.5	0	0
3	環境 <input type="checkbox"/> いろいろな感覚を働かせて身近な環境に興味や関心、好奇心をもちはじめています <input type="checkbox"/> おもちゃ、絵本、園庭の遊具を使った遊びを楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 身の回りにある物の形や色、大きさや量などの性質や仕組みに興味をもちはじめています <input type="checkbox"/> 自分の物と人の物との区別に、しだいに気付きはじめています <input type="checkbox"/> 自分が過ごすのにふさわしい場所や居場所を見つけて遊ぼうとしている <input type="checkbox"/> 身近な生き物に気付き、親しみをもちはじめています <input type="checkbox"/> 季節の行事などに興味や関心をもちはじめています	79.2	20.8	0	0
4	言葉 <input type="checkbox"/> 自分の欲求や気持ちを自分なりの言葉で伝えようとしている <input type="checkbox"/> 生活に必要な言葉を聞き分けはじめています <input type="checkbox"/> 日常の様々なあいさつをしたり応じたりしはじめています <input type="checkbox"/> 絵本や物語等に親しみをもち、まねをしたりして遊ぼうとしている <input type="checkbox"/> 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現しようとしている	75.0	25.0	0	0
5	表現 <input type="checkbox"/> 水、砂、土、紙、年度など様々な素材に触れて楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 生活の中で、様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどを感じて楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現しようとしている	83.3	16.7	0	0
(2) 本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価		4	3	2	1
6	子育て支援事業への満足度 私は、尚絅こども園で行われている「子育て支援事業」全般に満足している。	47.8	52.2	0	0
7	経営、教育・保育全般への満足度 私は、園の教育・保育のあり方、安全面、環境面（施設・遊具・教材・絵本等）、給食、情報提供等の経営全般に満足している。	83.3	16.7	0	0

## Ⅲ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10「10の姿」に照らして、わが子（園児）がその方向に育っていると思われるか？

- 1 調査時期 令和8年2月  
 2 調査対象 満3歳以上の園児の保護者251名、回答数192名、回答率76.5%。教職員62名、回答数62名、回答率100%  
 3 評価基準 4. とても育っていると思う 3. だいたい育っていると思う 2. あまり育っていないと思う 1. まったく育っていないと思う

評価の観点（10の姿）			保護者				教職員			
			4	3	2	1	4	3	2	1
1	健康な心と体	健康で安全な生活を意識しはじめ、十分に体を動かして喜んで遊ぶ方向に育っている	85.1	13.8	1.1	0.0	58.6	41.4	0.0	0.0
2	自立心	主体的・積極的に環境と関わり楽しみ、達成感や自信をもつ方向に育っている	69.3	28.6	2.1	0.0	47.5	52.5	1.6	0.0
3	協同性	言葉で友達と関わり、共通の目的に向かう活動を喜び合い成長する方向に育っている	64.0	30.7	4.8	0.5	33.3	66.7	0.0	0.0
4	道徳性・規範意識の芽生え	友達との関わりや生活の中で、善悪を判断し、相手の立場を理解する方向に育っている	47.6	46.6	5.3	0.5	20.7	77.6	1.7	0.0
5	社会生活との関わり	友達や身近な人々へ目を向け、人を大切にしたり人の役に立つことを喜びと感じたりする方向に育っている	59.7	37.1	2.7	0.5	33.9	64.4	1.7	0.0
6	思考力の芽生え	身近な環境に感じ・気づき・考え、予想したり、周りの友達との関わりの中で工夫したり考え直したりする方向に育っている	59.3	35.4	5.3	0.0	45.6	52.6	1.8	0.0
7	自然との関わり・生命尊重	身近な自然物に関心をもち楽しみ、感動したり命をかけたがえのないものと感じる方向に育っている	63.0	35.4	1.6	0.0	49.1	49.1	1.8	0.0
8	数量や図形、標識や文字などへの興味・感覚	遊びや生活の中の数量や図形、絵本等で出会う文字等に興味関心をもつ方向に育っている	61.4	33.3	4.8	0.5	21.1	73.7	5.3	0.0
9	言葉による伝え合い	経験したことを言葉で伝え合うとともに、相手の話をよく聞く方向に育っている	48.7	46.6	4.2	0.5	28.1	68.4	3.5	0.0
10	豊かな感性と表現	身近なことに感動したり、友達の表現に感じたり、自分で表現することを楽しむ方向に育っている	62.4	35.4	1.6	0.5	48.3	50.0	1.7	0.0

# 学校関係者評価に対する総括

	評価の観点 (文科省が教育・保育 要領で示したねらい)	評価	成果と課題
I	0歳児 「3つの発達」	A	<p>1 0歳ひよこ組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て「3つの発達(身体的・社会的・精神的)」が、おおむね順調に発達していると思われています。</p> <p>2 社会的な発達については、「ゆるやかな担任制保育」を展開し、親の次に親しみをもつ保育者との気持ちがよく通じ合うように工夫していることが功を奏していると自己評価しています。</p> <p>3 精神的発達においては、豊富な遊具や保育者自作遊具等に恵まれて順調な発達をしていると評価しています。</p>
II	1・2歳児 「5つの領域」	A	<p>1 1歳りす組・2歳うさぎ組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て「5つの領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)」が、おおむね順調に発達していると思われています。</p> <p>2 保護者は、広い園庭や恵まれた施設、森や芝生広場等において健やかに伸び伸びと育つ環境を用意できていることを望ましい環境と評価しておられます。</p> <p>3 領域別の中では特に「言葉」「表現」「人間関係」の成長を評価しています。保育者達は、愛情をもって応答的・受容的な保育を実践しています。</p>
III	3・4・5歳児 「10の姿」	A	<p>1 満3歳ぱんだ組～年長組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て、認定こども園の教育・保育修了時の具体的な姿である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10」に照らして、全項目とも94%を超えるみなさまが発達の段階に沿った順調な育ちをしていると思われています。</p> <p>2 内容別にみると、満3歳～年長組まで共通して「健康な心と体」「自立心」「自然とのかかわり・生命尊重」「豊かな感性と表現」は98%を超える方がわが子の成長をお感じになっておられます。園庭や近隣の森などでの遊びを通して健全に育っていることを実感してくださったことを感じます。</p> <p>3 教職員は、特に「健康な心と体」「自立心」「協同性」で100%の成長を感じています。またそれ以外の項目でも、90%以上の評価でしたが、「数量や図形、標識や文字等興味・感覚」「言葉による伝え合い」が比較的低いとみえています。</p> <p>4 保護者より教職員の方が全体的に低い評価です。これは、保育者の方が集団の中で現れる園児の姿を見ていることと、さらに良くなって欲しいという願いや自らの教育・保育を振り返り謙虚により良い姿を高い目標として据えているという使命感も含まれていると考えています。</p> <p>5 子育て支援事業や園の経営、教育・保育に対してはおおまかにご満足いただいています。</p>

評価は、保護者が「評価の観点」毎に、4:とても育っている、3:だいたい育っている、2:あまり育っていない、1:まったく育っていないの4段階で評価し、割合(%)を算出した。それを、評価4と評価3を足した割合を算出し、80%以上がA、80%未満70%以上がB、70%未満50%以上がCと評価した。

- 1 評価委員会開催日時 令和8年3月
- 2 調査対象 学校評価委員6名（祖父母代表、杉の子会（PTA）会長、学園関係者4名）回答数100%（※地域代表の方は辞退）
- 3 評価基準  
 評価の観点Ⅰ～Ⅴ： 4達成していると思う 3だいたい達成していると思う 2あまり達成していないと思う 1達成していないと思う  
 評価の観点1～6： 4充実していると思う 3だいたい充実していると思う 2あまり充実していないと思う 1充実していないと思う

評価の観点（Ⅰ～Ⅴは事業計画の項目、1～6は経営・管理面）	4	3	2	1
Ⅰ 子どもの健やかな成長のための教育・保育の充実	83.3	16.7	0.0	0.0
Ⅱ 子育て支援の充実	66.7	33.3	0.0	0.0
Ⅲ 次世代保育者の育成	66.7	16.7	16.7	0.0
Ⅳ 自然豊かな園庭でのびのびと遊ぶ園児の確保	100.0	0.0	0.0	0.0
1 経営・管理面（安全面、園児確保、教員の確保、広報、コンプライアンス等）	50.0	50.0	0.0	0.0
2 労働面（やりがい、人間関係、広報、コンプライアンス等）	40.0	60.0	0.0	0.0
3 教員としてのライフステージに応じた指導力の向上	33.3	66.7	0.0	0.0
4 特別支援教育、人権教育、安全教育、食育等	66.7	33.3	0.0	0.0
5 大学・短大との連携、教育実習の充実	83.3	16.7	0.0	0.0
6 保護者(杉の子会)、地域、行政、療育施設、近隣小中学校等との連携	83.3	16.7	0.0	0.0

評価委員の意見・質問及びこども園からの回答

○非認知能力を意識されての保育があり感心しております。心理学的に重要なワードです。主体的な活動を促すには非認知能力の促進が必要だと思えます。先生からの言葉で動くのではなく、内発的に発生した欲求こそが人間のエネルギー源になります。自然の中での遊びは多くの発見があり非認知能力の源となります。今の保育の方針は、非認知能力の発達と合致していると思えます。学生の実習には大変お世話になっています。心よりお礼申し上げます。→尚綱こども園が大切にしていることを励ましていただき、有難く思います。将来にわたる生きる力の基礎をこれからも育ててまいります。

○多くの行事等を実施されており敬服いたします。アンケート結果を見てほとんどが良い結果と感じております。その中でどうしても相反する意見がありますが、園での教育目的に従い全ての意見を受け入れる必要はないと思えます。先生方のお話を聞くことも園の理念や教育目的を念頭に、保育・教育をされていることが伝わってきました。→こども園として保護者の方とのコミュニケーションを大切にしながら園運営を行っていきます。

○貴園の方針等は概ね評価されており、今後とも現状にて対応でよろしいと考えます。人的不足が続く中で、大学・短大がより深く情報共有することにより解決策が見つけられればと考えます。→教育保育面のみならず管理運営面でも大学・短大の方々にはお世話になっています。今後ともよろしく願っています。

○自然の中での充実された食育のおかげで孫たちも食べ物に興味を持ち、苦手な食べ物へも挑戦したり成長過程を見たりすることで知識も増えたように思います。  
 遊具の安全管理、よろしく願います。→尚綱こども園としての特色を大切に守りながらも時代の変化にも対応しながら、信頼される園づくりに努めてまいります。遊具の安全管理も安全点検等を通して徹底していきます。

○ホームページをたまに拝見しています。はじめにページを開いたときに、「のびのび育て子どもたち」の言葉とともに写真がスクロールされ、園からのお知らせで、たくさんの写真とともに、普段の園生活を見ることが出来、大変良いと思うのですが、「のびのび系の園」という事しか第一印象では伝わらない気がします。例えば、トップに「遊びは学び。」「遊びは遊びから始まる」など、インパクト(一言で、ただ遊ばせているわけではないということ)ある言葉で、園の特色を出した方が良いように感じます。「大学附属園としての専門性を活かし、遊びを中心としたカリキュラムを構築しています」…など、他の園にはない魅力ある言葉(遊びの中で生まれる「考える」「試す」「協力する」という経験は机の上だけでは育てられない…のような刺さる言葉)をトップに持ってくると、より引き込まれるホームページになる気がします。素人ながら、偉そうにすみません。→本園に対するたくさんの愛情を感じ、とてもありがたく思います。ぜひ参考にさせていただき、リニューアルをしていきたいと思えます。

○今年度もぜひ大学・短大の教員とこども園の先生方と連携し、よりよい保育の創造に向け取り組みたいです。  
 また教育実習でも大変お世話になります。どうぞよろしく願っています。→質の高い保育を行ううえで助言等ありがたく思います。園児にとっても実習生との関わりがより良い成長につながっています。

学校評価の総括

- I 保護者も保育者も、わが子・園児は大まかに目指す方向に育っていると評価しています。
- II 保護者も保育者も、園経営はほぼ充実していると評価しています。
- III 保育者は使命感をもって教育・保育に当たっており、教師力を高める研修を望んでいます。
- IV 今後の課題として、以下のことが必要であると考えています。

- 1 自然豊かな環境を生かした教育・保育が尚絅らしさの原点です。「全体的な計画(教育課程)」をもとに、保育者全員が温かく愛情に満ちた教育・保育を通して健やかな園児の育成に努め、在園児保護者・地域子育て保護者から信頼される園にしていくことが重要だと考えます。
- 2 今でも自然豊かな環境で愛情豊かな教育・保育に取り組んでいることに多くの評価をいただいています。そのうえで少子化の時代の中で、定員の見直しを状況に応じて行っていきます。また保護者が入園させたいと思える魅力ある園の運営をさらに進めていく必要があります。積極的に本園の魅力を発信したり「学校評価」等をもとに園運営の改善を図ったりしていきます。
- 3 教職員の業務改善を進め、教職員にとって心身ともに健康な状況で教育保育ができることが園児の健全な発育につながっていくと考えます。職員が欠員の状況がある中、組織を活性化し、様々な手立てを講じて、働きやすい職場づくりを進めていきます。
- 4 欠員後募集しても、応募がない状況がありました。人材確保に関する大学、短期大学部との連携強化や処遇の見直し等を通して保育者の確保につなげていければと考えています。
- 5 DX化の推進では、業務支援システム「コドモン」でのお便りのペーパーレス化、ドキュメンテーション機能の利用などで利便性を高めてきました。今後は、保護者にわかりやすく使いやすい提供の仕方や教職員の業務改善等のためにさらなる利活用を推進していきます。
- 6 在園児保護者と地域子育て保護者の支援に努めます。在園児保護者に対しては、児童虐待やDV事案等の対応に関係機関とも連携して取り組み、園児の命と成長を守ります。また、特別な支援を必要とする園児の保護者支援としては、療育施設や菊陽町との連携、子育て相談会等に努めます。さらに、教職員の研修を重ねるとともに、地域子育て保護者に対しては、「どんぐりルーム」のさらなる充実を図りながら支援に努めます。
- 7 本園の使命である教育実習では、幼児教育学科、こども教育学部の教職員の方々と緊密に連携しながら、学生にとって実り多い実習となるように努め、幼児教育に携わりたいという学生が増えていくよう支援していきます。
- 8 教職員のライフステージに応じた資質の向上のための園内研修・園外研修(大学・短大と連携した研修、キャリアアップ研修、幼児教育諸団体等の研修)を計画的、積極的に実施・受講していきます。
- 9 施設設備等の安全性の向上に努めます。幼児棟は、2005年に建築してから21年が経ちメンテナンスが必要です。昨年度に引き続いて屋根や室内の壁の補修等を行なっていきます。